

1 今年度の取組の成果と今後の課題

令和3年度は、前年度から続く新型コロナウイルス感染症への対応に迫られる1年であった。

感染症対策を講じての教育活動を進めるとともに、時差通学と短縮授業を継続し、感染状況によっては分散登校やオンライン授業を取り入れ、生徒の学びをいかに保障するかが最大の課題であった。本校は、「Society5.0に向けた学習方法研究指定校」2年目のまとめの年度を迎え、「一人1台端末」による学習方法を取り入れ、授業にICTやBYOD等のクラウドサービスの利活用を推進した。その一方、感染症対策を講じての補講や補習、進路にかかわる個別指導等にも力を入れ、対面による指導も可能な限り実施した。

学校行事においては、文化祭及び体育祭は学年毎による縮小した形での開催であったが、日帰りの校外学習や球技大会、芸術鑑賞教室等、生徒の心を育てる視点に重きを置いた学校経営を行った。

また、対外的には募集対策に注力し、前年度の課題を踏まえ、中学校への出前授業や個別相談会、ホームページの配信回数の充実を通して、本校の魅力を伝えた。それによって、入学者選抜の倍率も伸び、次年度に向けて活力をもたせることができた。

さらに、スポーツ特別強化校（平成31年度～令和3年度）の指定最終年度において、弓道部が全国総合体育大会（インターハイ）への出場を果たし、次年度の「Sport・Science Promotion Club」の指定に結びつけることができた。加えて、陸上部がインターハイへの出場を果たし、和太鼓部は日本太鼓ジュニアコンクール全国大会で特別賞を受賞するとともに、次年度の「とうきょう総文2022」への出場権を得たことも大きな成果と言える。

生徒のキャリア教育については、入学時から計画的、系統的に組み立てた指導を行ってきており、卒業生の進路決定率は92%に上った。今後さらに個に応じた適切な進路指導を行う必要がある。

次年度の課題は、引き続きコロナ禍での安全な教育活動を継続し、心身共に健全で自らの将来を自らの力で開拓できる生徒の育成を図るとともに、校訓の「自立共生」を基盤に、スクールミッションを実現させていくことである。

（1）学力指標の具現化と共有

生徒の多様な進路希望を実現するために、その土台となる学力を向上させることは、本校の喫緊の課題であった。特に、各教科の基礎・基本の確実な定着を図ることは、これまでも確認されてきている。さらに各教科だけではなく全教職員で各教科が目指すところを把握し、生徒指導に役立てるために以下の取組を行った。

ア 教科会を定期的に開催し、都立高校学力スタンダードに基づき教科ごとの基礎・基本となる内容を早期に具体化した。（各教科）

イ 教科主任会議において、具体化された基礎・基本の内容を交換した。（教科主任）

ウ 企画調整会議や職員会議などの基幹会議を通じて、全体共有を図った。（全員）

（2）自主学習習慣の定着

生徒の自律的学習習慣の定着を図り、また、生徒及び教職員の両方で個々の生徒に関する共通の学力水準を理解し、さらに学力向上を図るために個々の指導につなげた。

ア HR教室の情報環境(Wi-Fi)を活用し、進路指導部、学年、教科が連携して、効果的に学習支援

クラウドサービスを運用した。

イ 学力向上委員会を活性化し、生徒の学力向上に資するとともに、Society5.0に向けた学習方法研究校として、Society5.0に向けパソコン委員会が中心となりで学習支援クラウドサービスの活用方法・運用について検討した。

(3) 面談指導の重視

学年担任を中心とする個別面談を重視し、そのために、定期的な面接週間を設けるとともに、三者面談を原則、各学年で全員実施した。

ア 各学年と進路指導部が連携し、面談結果の共有に努めた。

イ 履修指導に際して、進路希望の状況が全教職員で共有できるように検討を行った。

ウ 面談に際しては、「意向調査資料」を活用するとともに、逐次内容の更新を行った。

エ 学習の状況について、生徒への還元とさらなる向上のための方途について、検討を行わせた。

(4) 学習環境の一層の充実と学習習慣の定着

自律的な生活の確立と学習習慣の定着を進路実現に結び付けるために具体的な支援を行った。

ア 自習室の開室を平日・考査前土曜日に引き続き実施したが、感染症対策のため十分に活用ができなかった。

イ 長期休業中の補習・補講の在り方について検討を行い、生徒のニーズに応じたきめ細かい指導や資格取得を実現させた。

ウ IBC (Ice Breaking Camp) などの従前の学校行事における内容の検討と改善は引き続き次年度への課題となった。

(5) 部活動の活性化による心身の育成

本校の優れた伝統である部活動の一層の振興に引き続き尽力した。

ア 優れた成果があった部活動は、生徒・教職員を含めて全校で顕彰した。

イ 部活動を通じて、成就感や達成感を生徒に醸成させた。また、競技力の向上に励むとともに「アクティブプラン to2020～総合的な子供の基礎体力向上方策(第3次推進計画)～」に基づく全生徒の体力向上につなげた。

ウ「スポーツ特別強化校」の指定による予算を、部活動の一層の振興に活用し、次年度の「Sport-Science Promotion Club」の指定を受けることにつながった。

エ 弓道部、陸上競技部が全国高等学校総合体育大会(インターハイ)への出場を果たした。また、和太鼓部は、日本太鼓ジュニアコンクールにおいて東京都代表として全国大会へ出場し、特別賞を受賞するとともに、高文連郷土芸能部門で次年度開催の「とうきょう総文2022」への出場を決めた。

オ 部活動顧問と学年担任とのより密な連携により、入部している生徒の生活の質を向上させる。

カ 入部率を向上させる。

(6) キャリア教育の改善と評価

「総合的な探究の時間」で実施する「Gateway to Careers ー未来への扉ー」について、改善内容が円滑に実施されるように努めるとともに、年度末に評価と改善を検討した。

(7) 新学習指導要領の告示に伴う対応

ア 教科主任会議を中心として、教育課程の検討を行い、特に、新しい学習指導要領の理念を共

通認識し本校での実施に向けた内容検討を深めた。

イ 授業力向上のために実施する校内研修の進め方について、新学習指導要領への対応を含めた内容として具体的な実践を行うとともに、評価の在り方について検討を進めた。

ウ オリンピック・パラリンピック教育を「学校 2020 レガシー」に移行し、今後人権尊重の教育を一層推進する。

2 重点目標及び数値目標の結果

(1) 学習活動

- ア 生徒の学力把握と効果的な還元（年間実施）
- イ 授業時間以外の自学自習習慣の促進
- ウ 自習室の稼働率向上を促進（年間実施）
- エ 土曜日自習室等の開室（年 5 回達成）
- オ 部活動顧問と学年の連携した学習活動への取組（年間実施）
- カ 全学年複数回の個別面談の実施（3 回以上達成）
- キ 読書活動の推進を継続的に行い、学校図書館機能を充実（年間実施）
- ク 第 1 学年次生、第 2 学年次生の履修相談週間の実施（第 2 学期実施）
- ケ 「東京 2020 レガシー」を受け、「日本の伝統・文化」理解の向上をはかる。（年間実施）
- コ 教科会の定期的な開催（年間 10 回以上実施）

(2) 生活指導

- ア 自転車通学生をはじめとする交通安全教育の実施（年間実施）
- イ 都立高校生活指導指針に基づいた頭髪指導・服装指導・遅刻防止指導等の生活指導を継続実施（年間実施）
- ウ 体罰禁止・いじめ防止といじめを許容しない指導体制の維持（年間実施）
- エ 「SOS の出し方に関する教育」の推進（1 年次の授業中心に実施）
- オ 特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育の推進（委員会 8 回以上開催）→（年間 8 回）
- カ SNS 美原ルールの浸透（学期に 1 回以上の注意喚起）
- キ 美化活動と「もったいない大作戦」として購買のビニール袋廃止などのごみ減量の推進（年間）
- ク 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとしてボランティア活動の推進（地域清掃 5 回以上）→（地域清掃 3 回実施）

(3) 進路指導

- ア 進路指導の課題を改善し、推薦・AO 入試対応を強化し、組織的な進路指導を体系化した美原進路サクセスプランの策定（2 学期まで）→（年度末実施）
- イ 「総合的な探究の時間」の内容改善に関する評価（年度末実施）
- ウ 学習支援システムの効果的な活用（年間実施）
- エ 進路決定率の向上（85%以上）→（92%）
- オ 進路希望実現率（3 年次春の調査からの向上 87%）→（92%）

(4) 特別活動・部活動

- ア 「生徒に考えさせ、実行させ、達成感を味合わせる」生徒会活動や学校行事の実施（年間実施）

- イ 部活動の質の向上と入部率の向上（加入率70%以上）→（67%）
- ウ 部活動の振興（都大会出場以上の成果を上げる部活4部以上）→（4部）
- エ 全教職員、保護者、地域住民が一体となった、部活動支援及び関係機関からの支援（年間実施）

（5）保健指導・健康づくり

- ア スクールカウンセラーによる1年生全員面接や教育相談委員会を中心とした生徒からの相談事についてと生徒情報の共有（月1回開催）
- イ 専門医の派遣事業活用（年3回、研修1回）
- ウ 自律的な健康づくりを目指した、生徒の保健委員会活動支援（年間実施）
- エ 「アクティブプラン to 2020・総合的な子供の基礎体力向上方策(第3推進計画)」に基づき教科を中心とした体力向上（年間実施）

（6）募集・広報活動

- ア 入学者選抜における応募倍率の向上と、安定した受検者数の維持（学力検査に基づく選抜1、1倍）→（1、17倍）
- イ 意匠を工夫した学校ホームページの充実と更新（800回以上）→（330回）
- ウ 学校説明会等の工夫と改善（年間5回以上開催 1000人以上）→（5回計1155人）
- エ 大田区と品川区の中学校及び学習塾等へのより強い広報活動の展開（年間）→出前授業5回 塾長対象合同学校説明会の開催
- オ グランド開放、テニスコート開放、公開講座などの学校開放事業を継続し、広く都民に開かれた学校として学校資源を活用するとともに、広報活動の機会とする（年間）

（7）学校経営・組織体制

- ア 学力向上委員会の定期的な開催（月1回）
- イ 教科主任会議の定期的な開催（月1回）→美原の「基礎・基本」の策定と新学習指導要領への対応
- ウ 将来構想委員会の定期的な開催（月1回）→「美原進路サクセスプラン」の策定
- エ 教育相談委員会の定期的な開催（月1回以上）
- オ 校内研修の充実（授業力向上研修→年間2回、若手校務分掌研修→年間10回、行政系OJT→年間3回）
- カ 服務規律を高め、コンプライアンスとモラルに基づく職務行動の推進（体罰防止研修を含め 服務事故防止研修を月1回実施）
- キ 「学校における働き方改革推進プラン」に基づきライフ・ワーク・バランスを意識した安全衛生委員会の開催（月1回）
- ク 学校運営連絡協議会及び学校評価の実施
学校運営連絡協議会は、年間3回実施した。（書面開催2回、対面開催1回）
学校評価では、生徒及び保護者の学校満足度が各々87%となった。（前年度 生徒88%、保護者86%）協議委員による学校が良くなったという肯定的評価は78%となった。
- ケ 年次有給休暇取得の推進（16日以上60%）→（62%）
- コ 一般需用費のセンター執行割合の向上（60%）→（57%）